

令和六年度  
名寄市立大学  
学校推薦型選抜・社会人選抜

小論文問題

試験時間 一〇時〇〇分～一一時三〇分（九〇分）

\*受験上の注意

- ① 指示があるまで開いてはいけない。
- ② 指示に従って、静粛に行動すること。
- ③ 机上には、受験票、HBの黒鉛筆またはシャープペンシル（シャープペンシルの芯はケースから取り出したもの）、消しゴム、鉛筆キャップ、鉛筆削り、時計、眼鏡、目薬、ハンカチ、ティッシュペーパー（袋・箱から取り出したもの）以外、不要な物は置かないこと。
- ④ 質問、用便その他、特に必要のある場合は黙って手を挙げ、指示を求めること。
- ⑤ 不正を行ったものは試験を中止し、以後の受験資格を失うものとする。

次の文章を読み、あとの問に答えなさい。

最近、少し難しい政策課題などについて、世論調査を行うと「どちらとも言えない」という回答が増えているそうです。たとえば、TPP問題などもそうです。TPP（環太平洋戦略的経済連携協定）に参加すべきかどうか、賛成派の話を聞けば一理あると思い、反対派の話を聞けばそれをもっともだと思ってしまう、という具合に、自分の意見をなかなか決められない人がたくさんいます。そうした場合、どうすればいいのでしょうか。

厳しいことを言うようですが、「どちらとも言えない」を選んでしまうのは、ほとんどの場合「考え不足」が原因です。本当は、その問題に正面から向き合って十分考えていなかったり、手持ちの情報が少なかつたりするのが原因なのに、「それは難しい問題だから」と理由を置き換えて、自分を誤魔化ごまかしているのです。

何でも安易に納得してしまうのは困りものですが、「考え不足」で意見が決められないのも困った話です。

そもそも、意見を決められないとき、私たちはどのくらいその問題について真剣に考えているでしょうか。そのテーマに関する本の一冊も読んでいるでしょうか。大して考えることのないままに、「決められない」と言っているだけではないでしょうか。

日本人の教養不足の一因は、このような「手抜き」にあるように思います。端的に言えば、勉強不足です。わずかな努力を惜しんで、お手軽な「答え」に乗っかろうとする風潮が強すぎます。これでは「自分の頭で考える」ことなど夢物語です。

また、日本人は、まさか第二次世界大戦での敗戦の記憶を拭い去りたいためではないでしょうが、何事につけ「あつさり」している傾向もあるように思います。一つのことを粘り強く考えるということをあまり好みません。むしろ、しつこく考える人は嫌われる雰囲気さえあります。

そのため、何かのテーマがじっくりと追究されることがありません。いつときは人々の関心が高まったとしても、すぐに興味は失われ、忘れ去られてしまいます。政治や経済の重要な問題でも、まるでファッションの流行のように次々と現れては消えていきます。関心があつても、流行っていることの表面的な部分にとどまっていたら、「決められない」のも当たり前です。私たちは自分たちの飽きっぽさをもう少し自覚する必要があります。

自分の意見を決めたとしても、まだ落とし穴があります。何かのテーマについて、「反対」だという結論に至ったとします。そのとき気をつけなければいけないのは、「反対のための反対」に陥ってはいないか、ということなのです。

「反対のための反対」は、社会的な立場の高い人にもよく見られます。一部の政治家が

その典型です。威勢よく反対すれば支持が得られると勘違いしているためか、ともかく声高に反対を唱えることがよくあります。しかし、そのような政治家のほとんどは、攻守ところを変えて「では、おまえがやってみろ」となったら、おそらく適切な解を見出すことはできないでしょう。

反対のための反対をしている人は、ほとんどの場合、問題の全体像が見えていないのです。ごく部分的な矛盾をとらえて反対の声を上げているにすぎません。ところが、本人にはその自覚のないことが多く、「おかしい」「変だ」と思うことを精一杯指摘しているつもりなので、なおさら厄介です。やる気だけが満ちているので、周りは振り回されるばかりです。

本人に悪気はないとしても、こういうタイプの人は結局のところ、無責任です。部分部分では的確な主張をするのでいつときは共感を集めることもあります。決して本当の教養があるとは思えません。「人間社会とは、いびつな欠片かけらが集まって一つの安定状態を形成するもの」なのです。大事なのは「いびつな欠片」を指摘することではなく、全体としての「安定状態」を把握することです。

さまざまなことを知り、それによって新たな世界に眼が啓ひらかれ、人生が面白く充実したことになる。自分の頭で考えて本当に納得のいく答えを見出し、よりよい社会をつくるために行動に移し、それが自分の生活の向上にもつながる。これが、遠回りのように見えても本当に望ましい人間のあり方でしょう。教養とは、この人生のPDCA (Plan→Do→Check→Act) サイクルを動かすためのツールです。たんに知識が豊富、物知りだということだけでは、ただの知識オタクにすぎません。

いま、私たちは教養人であることが求められています。その理由については後述しますが、結論を先に述べれば、これまでのキャッチアップ型社会のように「考えない」ままでは、個人も社会も立ち行かなくなっているからです。「教養なんて、所詮しよせん、インテリのもので自分には関係がない」などと思わずに、今日からでも教養を身につけるよう勉強を始めていただきたいと思います。

(「人生を面白くする本物の教養」出口治明著幻冬舎新書二〇一五年より)

問一 自分の意見をなかなか決められない理由について、筆者の考えを二〇〇字以内で説明しなさい。

問二 日本人の考え不足、教養不足について、あなたが考えることを六〇〇字以上八〇〇字以内で述べなさい。